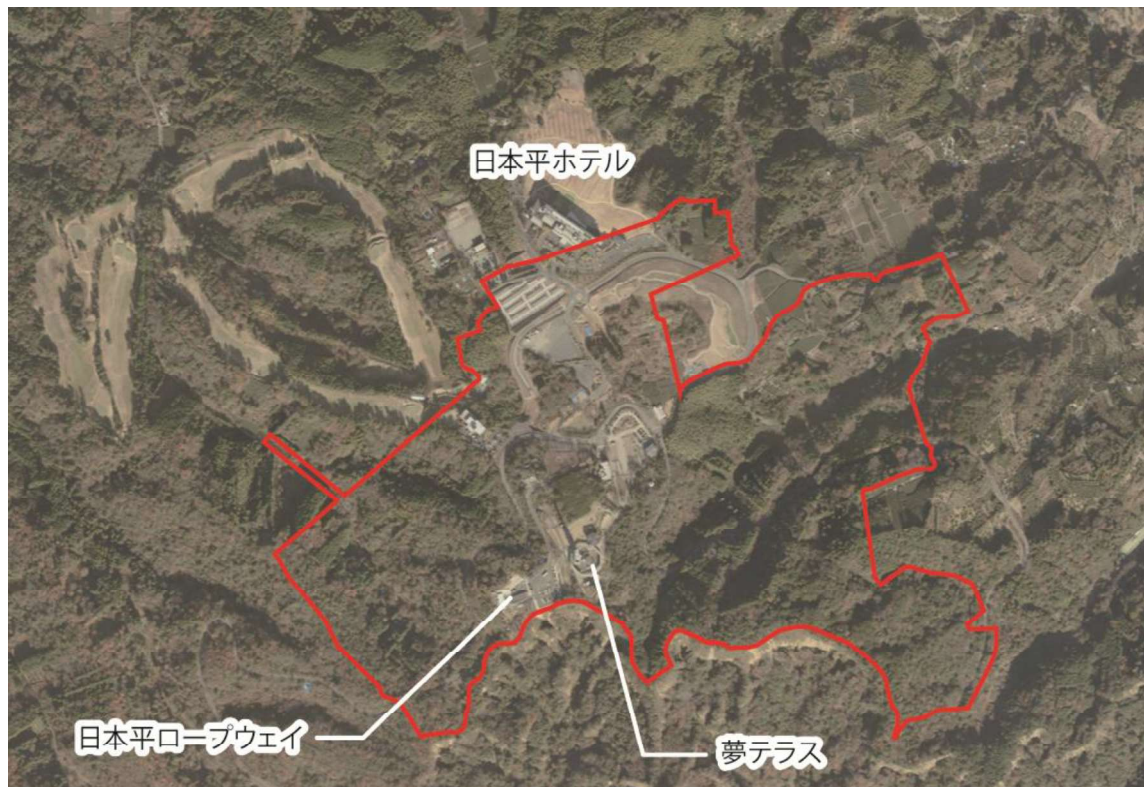


平成 30 年（2018） -

・夢テラス、展望回廊ができる。・日本平ホテル前交差点がラウンドアバウトになる。・道路の整備がすすむ。・大芝生広場の整備がすすむ。・公園駐車場の整備がすすむ。



出典：静岡市航空写真（令和 4 年度撮影）
現在の山頂部周辺

第6節 日本平の人文的環境

Ⅰ 生活・生業

有度山の山頂部は明治期になり開墾された。静岡の温暖な気候、日当たりが良くなだらかな丘陵地を利用して、お茶やミカンがつくられた。

<日本平とお茶>

【茶畑】

1. 「やぶきた」発祥の地

「やぶきた」は全国で栽培されるお茶の約70%、静岡県内では、約90%のシェアを占める品種である。「やぶきた」は、明治41年（1908）に旧安倍郡有度村の生まれである杉山彦三郎によって発見・育成された。有度山の麓の静岡市駿河区谷田には、（茶樹）やぶきた原樹／杉山彦三郎記念茶畑（静岡県指定天然記念物）があり、杉山彦三郎の功績が称えられている。

2. 清水港と茶の輸出

日米修好通商条約締結時、茶は生糸に次ぐ重要な輸出品目であった。静岡市は茶の名産地であったが、鉄道や船で横浜港へ運ばれ輸出されていた。明治32年（1899）、静岡県茶業組合連合会議所の海野孝三郎の尽力により、清水港は日本茶の開港場の指定を受けることとなる。指定を受け、海野孝三郎は静岡製茶再製所の誘致や日本郵船株式会社との交渉など、輸出環境の整備に努め、明治39年（1906）5月、日本郵船の神奈川丸による茶の直輸出が実現した。以降、清水港からの茶輸出は急激に加速し、明治42年（1909）には横浜港を抜き茶輸出日本一となり、大正6年（1917）には、全国茶輸出高77%を占める「お茶の港」となった。昭和12年（1937）、日本平山頂に海野孝三郎の功績を称える碑が設置されたが、清水港お茶輸出100周年を迎えた平成18年（2006）、ゆかりの地である清水港に移設された。

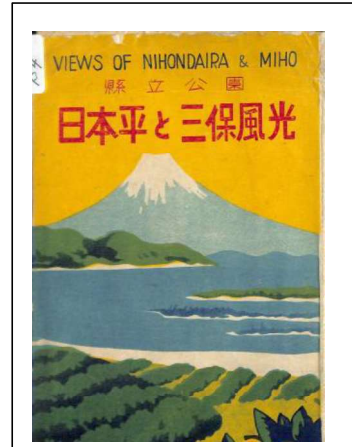
3. ちゃっきりぶしと日本平

「ちゃっきりぶし」は、昭和2年（1927）、静岡鉄道（当時、静岡電気鉄道）が狐ヶ崎遊園の開園を記念し、沿線の観光と物産を広く紹介するために、北原白秋に依頼して作詞され、静岡県の民謡として親しまれている。白秋は「唄を通じて特産品が認識され、輸出産業として発展」させる意図を込めて唄の制作を行った。歌詞の4番には、「さァさ、また行こ、茶山の茶つみ、日本平の山の平のお茶つみに。」と「日本平」での茶摘みの情景が描かれており、日本平と茶畑がセットとしてイメージ化されるきっかけになったものと考えられる。

「ちゃつきりぶし」は、昭和 32 年（1957）開催の静岡国体開会式で披露されたことにより、全国に広まり、昭和 36 年（1961）には、全国民謡人気コンクールにおいてトップの栄冠を獲得した。「ちゃつきりぶし」誕生 40 周年にあたる昭和 41 年（1966）、富士山と茶畑を望む名勝日本平山頂の日本平パークセンターの屋上に「ちゃつきりぶし民謡碑」が建てられた。この「ちゃつきりぶし」は、いわば唄をとおした観光戦略であり、静岡の茶や日本平などの静岡の名物・名所を紹介する意図もあった。



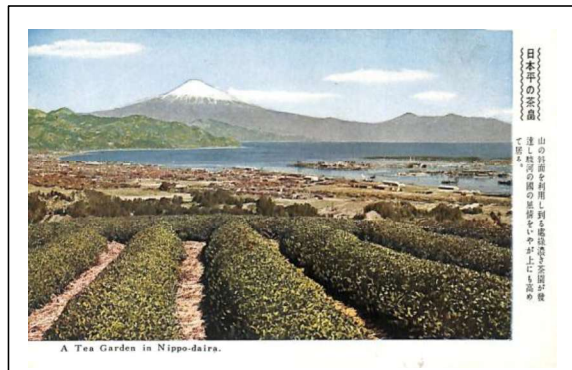
チャツキリぶし(茶摘み唄) 4 番 (静岡県立中央図書館所蔵)



〔外袋〕 県立公園 日本平と三保風光 (静岡県立中央図書館所蔵) 静岡県の絵葉書



日本平と茶摘 (静岡県立中央図書館所蔵) 静岡県の絵葉書



日本平の茶畠 A Tea Garden in Nippo-daira



日本平茶園にて Tea Picking on The Nihon-daira (静岡県立中央図書館所蔵) 静岡県の絵葉書

山の斜面を利用し到る所緑濃き茶園が発達し駿河の国の風情をいやが上にも高めて居る。(静岡県立中央図書館所蔵) 静岡県の絵葉書

「有度音頭」(うどおんど)、「有度小唄」(うどこうた)

* * * * *

静岡市立小中学校 124 校の校歌を調べたところ、6 校（東豊田小学校、宮竹小学校、清水岡小学校、清水飯田中学校、南中学校、清水第四中学校）で「日本平」を含む歌詞を確認した。掲載可能な校歌の歌詞を掲載する。

作詞 : PTA / 作曲 : 佐々木すぐる 日本平 空高く 富士もほほえみ 夢をよぶ 世界につづく 大空に 希望のつばさ はばたくは ああ われらの東豊田小学校	三、 寄せるさざなみ、しおのかに かねは希望の空になる よい子よい友なかよい子 日本平に陽はうらら おか、おか、わが母校	二、 もゆる若草、雲はゆく よべよ希望の青い鳥 よい子力を合わせる子 学びのまどに咲く花よ おか、おか、わが母校	一、 丘はさみどりしろがねの 富士にまむかい立つ子らは よい子すこやか明るい子 すくすく育つふるさは おか、おか、わが母校
花咲きみのる 丘の上 学びの窓辺は 日に映えて 誠をもとめ 若鳥が 歌声高く むすびゆく ああ われらの東豊田小学校			清水岡小学校 校歌
せんだんかおる この庭に 郷土のほまれを うけついで ゆかしく強く 果立つとき 平和の鐘は なりわたる ああ われらの東豊田小学校			
静岡市立東豊田小学校校歌		静岡市清水岡小学校校歌	

2 伝承、神話、ヤマトタケル伝説

(1) ヤマトタケル伝説

大和政権が近畿地方から東国に勢力を広げ、日本列島を支配していった様子は奈良時代に編纂された『古事記』や『日本書紀』のなかで、日本武尊などの物語として伝えられている。日本武尊は熊襲の討伐、叢雲の剣の拝受を経て、東海地方へと至る。

『古事記』中巻

「故爾到相武國之時、其國造詐白「於此野中有大沼。住是沼中之神、甚道速振神也。」於是、看行其神、入坐其野。爾其國造、火著其野。故知見欺而、解開其姨倭比賣命之所給囊口而見者、火打有其裏。於是、先以其御刀苅撥草、以其火打而打出火、著向火而燒退、還出、皆切滅其國造等、即著火燒。故、於今謂燒津也。」

【現代語訳】

そして相武国に着いたとき、その国造が倭建を騙して、「この野の中に大きな沼があります。この沼の中に住んでいる神は、ひどく強暴な神でございます」と伝えた。そこでその神を見るため、その野に入った。するとその国造は火をその野原につけた。それで倭建は、騙されたと気づいて、叔母の倭比売からもらった袋の口を解いて開けて見ると、中に火打石があった。そこでまず刀で草を刈り払い、その火打石で火を打ち出して向い火をつけて、燃え迫って来る火を退けて、その野を無事に出ると、その国造たちを皆斬り殺して、火をつけて焼いた。それで、今もその地を焼津という。

『日本書紀』7巻

「冬十月壬子朔癸丑、日本武尊發路之。戊午、枉道拜伊勢神宮、仍辭于倭?命曰「今被天皇之命而東征將誅諸叛者、故辭之。」於是、倭姫命取草薙劔、授日本武尊曰「慎之。莫怠也。」是歲、日本武尊初至駿河、其處賊陽從之欺曰「是野也、麋鹿甚多、氣如朝霧、足如茂林。臨而應狩。」日本武尊信其言、入野中而覓獸。賊有殺王之情王謂日本武尊也、放火燒其野。王、知被欺則以燧出火之、向燒而得免。一云、王所佩劔叢雲、自抽之、薙攘王之傍草。因是得免、故號其劔曰草薙也。叢雲、此云茂羅玖毛。王曰「殆被欺。」則悉焚其賊衆而滅之、故號其處曰燒津。」

【現代語訳】

この年、日本武尊は、初めて駿河に行かれた。そこの賊が従ったように見せ、欺いて、「この野には大鹿が多く、その吐く息は朝霧のようで、足は若木のようにです。お出でになって狩りをなさませ」と言った。日本武尊はその言葉を信じて、野に入り狩りをなされた。賊は、皇子を殺そうという気があって、その野に火を放った。皇子は欺かれたと気づき、火打石を取り出し火をつけて、迎え火をつくって逃れることができた。また一説には、皇子の差しておられる天叢雲劔が、自ら抜けだして皇子の傍の草をなぎ払い、これによって難を逃れられた。それでその劔を名づけて草薙というと言われる。皇子は、「ほとんど欺かれるところであった」と言われた。そして、ことごとくその賊共を焼き滅した。そこを名づけて焼津という。

ヤマトタケルの受難の地は、古事記においては、相武国（相模国）、日本書紀においては駿河国となっている。受難の地は近世から様々な解釈がなされている。静岡県史においては、「焼津については、延長五年（927）撰進の『延喜式』神名帳に、駿河国益頭郡の焼津神社、同有度郡の草薙神社、同廬原郡の久佐奈岐神社が見え、いずれも祭神を日本武尊と伝えていて、『日本書紀』の伝承を裏付けている。」とし、駿河説を支持している。

静岡県史にもあるとおり、有度山の北側には、日本武尊を主祭神とする草薙神社があり、現在も草薙という地名が残っている。

江戸時代末期に書かれた『駿国雑志』には、「有度郡巡村記伝。本郡草薙村草薙神社は、日本武尊を祭る處也。・・・」と記載がある。草薙神社は創建 1900 年を超える神社であり、9 月 30 日に例祭が行われる。例祭に近い休日には県指定無形民俗文化財に指定される「草薙神社龍勢花火」が奉納される。

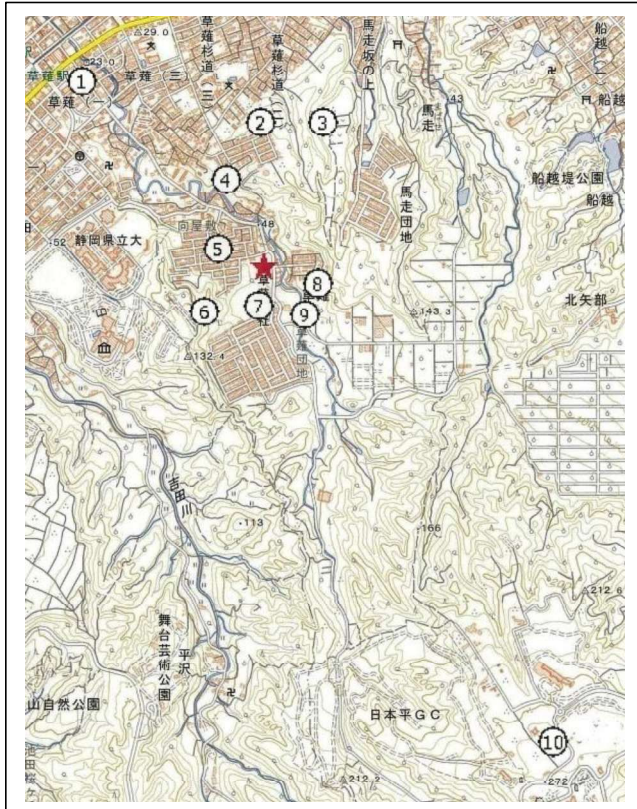


草薙神社



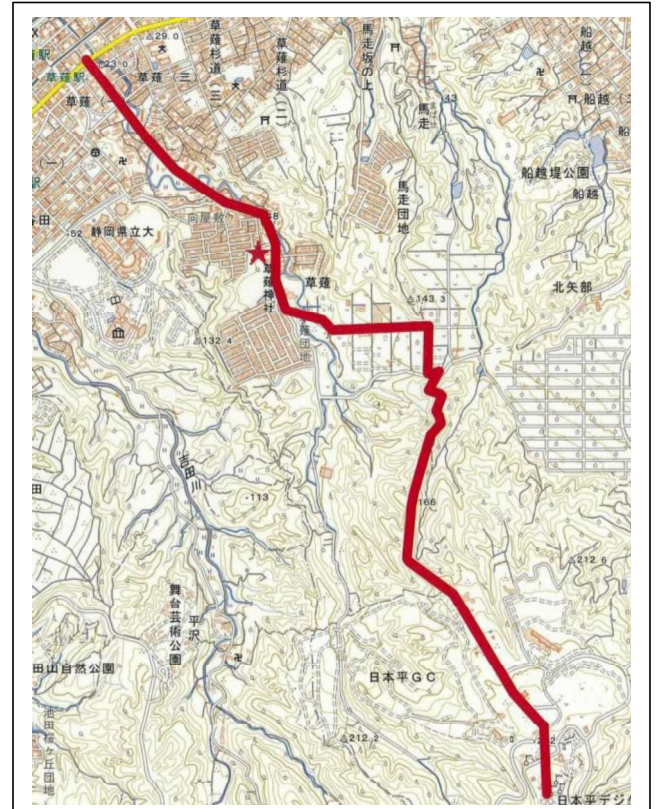
草薙神社の日本武尊像

草薙神社周辺には、日本武尊の伝説に関連する地が多数存在する。明治期に記された「式内草薙神社取調書」や大正 15 年 4 月 6 日付け静岡民友新聞において、由緒のある地が記録されている。また、有度地区と日本平は伝説的な繋がりだけでなく、アクセス面でもつながりをもっている。現在、草薙神社前から日本平山頂にかけてハイキングコースが整備されているが、草薙神社によると、江戸時代では草薙神社前から日本平にかけての土地は神社領であったという。



出典：国土地理院地形図（加工）

日本武尊伝説に関連する地点



出典：国土地理院地形図（加工）

草薙地区からのハイキングコース

草薙周辺のヤマトタケル伝説が残る

① 天皇原、古宮

- ・ ^{てんのうばら} 天皇原

景行天皇が日本武尊を偲び、この地を行幸した時、鳳輦を留めた場所と伝えられ、この地に天皇の神霊を遷した天皇社（明治末年草薙神社に合祀）を建て祀った。

- ・ ^{ふるみや} 古宮

草薙神社が最初に創建された所。古伝では、景行天皇 53 年、天皇が東国に巡幸の時、日本武尊を偲び社を建てたという。現在小社が存在する

② 首塚、血流川、大将塚

- ・ ^{くびづか} 首塚、首塚稻荷

日本武尊が征伐した賊徒の首を埋めたと伝えられる場所である。後世、野狐の栖が多くなり、一社を建て稻荷の神（字迦之魂）を勧請した。

- ・ 血流川

首塚社の北側の谷を流れる小川

- ・ 大将塚

「式内草薙神社取調書」において、日本武尊伝説に所縁ある地として「首塚の前にあり」

と記録される。

③ 駒ヶ原

日本武尊が駒を放ち、草を与えた所という。クマンバラという。

④ 東護^{とうご}の森

日本武尊が自ら伊勢大明神を奉祭し、皇軍東征の幸を祈ったという。

⑤ 柳ヶ澤

日本武尊が狩りをした時昼食に柳を折って箸とした所。草薙神社の催事には必ず柳箸を使用している。

⑥ 御座^{ござ}の松

日本武尊が狩りの時、松を折り敷き、憩いをとった場所といわれ、松の下に小祠を建て、大山祇を祀る。

⑦ 御犬ヶ森

日本武尊が狩りの時、犬を放った所という。かつて犬の栖があったと社記に記されている。(神社の南方)

⑧ 鞍下ヶ谷

日本武尊が野火の難にあったとき、鞍を降りたところ。

⑨ 御手水^{ちやうずがや}ヶ谷

日本武尊が狩りで汗をかいた折、ここの清水で手を洗われた所という。

⑩ 日本平^{にほんだいら}

「賊を打ち払った後、日本平で四方を見渡した」、「日本武尊が草薙のつるぎを振るって敵からの難をのがれた神話によって、日本平と呼ばれたのがその名の由来」等の伝説が残され、昭和 42 年（1967）には日本平ホテル駐車場にヤマトタケル像が建造された。

（２）久能山東照宮

徳川家康薨去後、元和 3 年（1617）霊廟として創建された久能山東照宮本殿・石の間・拝殿は、平成 22 年 12 月 24 日、国宝に指定された。権現造社殿、江戸幕府における造営組織の草創期において、その礎を築いた中井大和守正清の代表的な遺構の一つとして貴重であり、東照宮建築のうち、最初期の社殿として、我が国の建築史上深い意義を有すと評価された。

その他、社殿 13 棟（唐門、東門、廟門、渡廊、玉垣、廟所宝塔、末社日枝神社本殿、神庫、神楽殿、神饌所、鼓楼、神廐、楼門（廟所参道、銅灯笼 2 基、棟札 10 枚附指定）が国の重要文化財に指定されている。

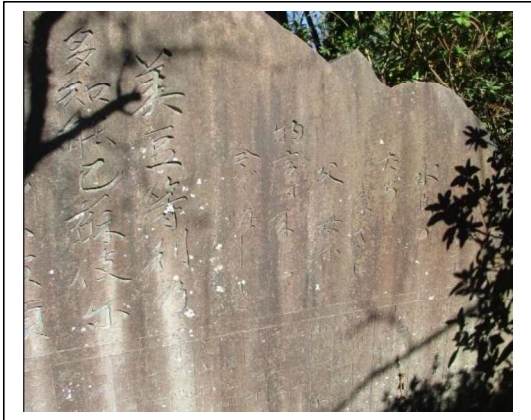
久能山東照宮博物館には、徳川家康ゆかりの歴史資料などが多く収蔵、展示されている。

史跡久能山は、名勝日本平の南側と隣接し、昭和 34 年 6 月 17 日、名勝日本平と同日、史跡指定された。

3 文学・芸術

文学碑 (『文学碑に見る清水～郷土資料集第2集～』2002 清水市教育委員会 参考)

日本平には文学に関する石碑が多数存在している。遠方の父母を思う清水出身の防人の歌を記した万葉の歌碑や日本平の広大な眺望を歌った尾上紫舟^{おのえさいしゅう}の歌碑が存在している。また、歌詞碑も建立されており、不遇な生涯を送った少女を歌う童謡「赤い靴」や茶どころ静岡の代表的な民謡である「ちゃっさり節」の歌詞碑を見ることができる。



万葉歌碑（昭和39年2月建立）

うどべのうしまろ
有度部牛麿が詠んだ歌。「水鳥のたちの急ぎに父母
に物言ず来にて今ぞ悔しき」第二次世界大戦で息子
を亡くした父母が建立。



赤い靴の母子像（昭和61年建立）

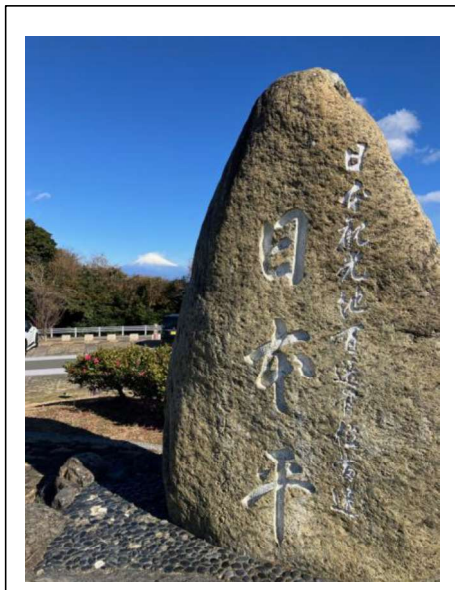
「赤い靴はいたた女の子 異人さんにつれられて
行っちゃった」の童謡「赤い靴」のきみちゃんの
母（かよ）の出身地が清水市であったことにより
建立



ちゃっさりぶし民謡碑（昭和41年建立）（ちゃっさりぶし民謡碑建設委員会）

（日本平ロープウェイ駐車場付近展望台）

碑には、1番と4番の歌詞と、楽譜の一部が刻まれている。ちゃっさり節誕生40周年の昭和41年に、北原白秋をしのび建てられた。昭和2年静岡鉄道が狐ヶ崎遊園開園を記念して、北原白秋に作詞依頼。



日本平観光地百選の碑

日本平観光地百選の碑の裏面に尾上柴舟^{おのえさいしゅう}の歌碑「のぼり
きて顧みすれば大富士と肩を並べてわれ立つごとし」とあ
ったが現在は風化しほとんど読めない。

【その他石碑、石造物】



昭和 54 年日本観光地百選第一位入選記念碑（清水市・静岡市）



水の神を祀る。かつて日本平は水が出ないのが悩みであったが、静岡鉄道が水脈を確保し、さく井に成功した。

(日本平ロープウェイ駐車場付近展望台上)

(日本平山頂水源地 昭和 39 年竣工)

水祝神社



平成 27 年 富士山世界文化遺産登録記念碑

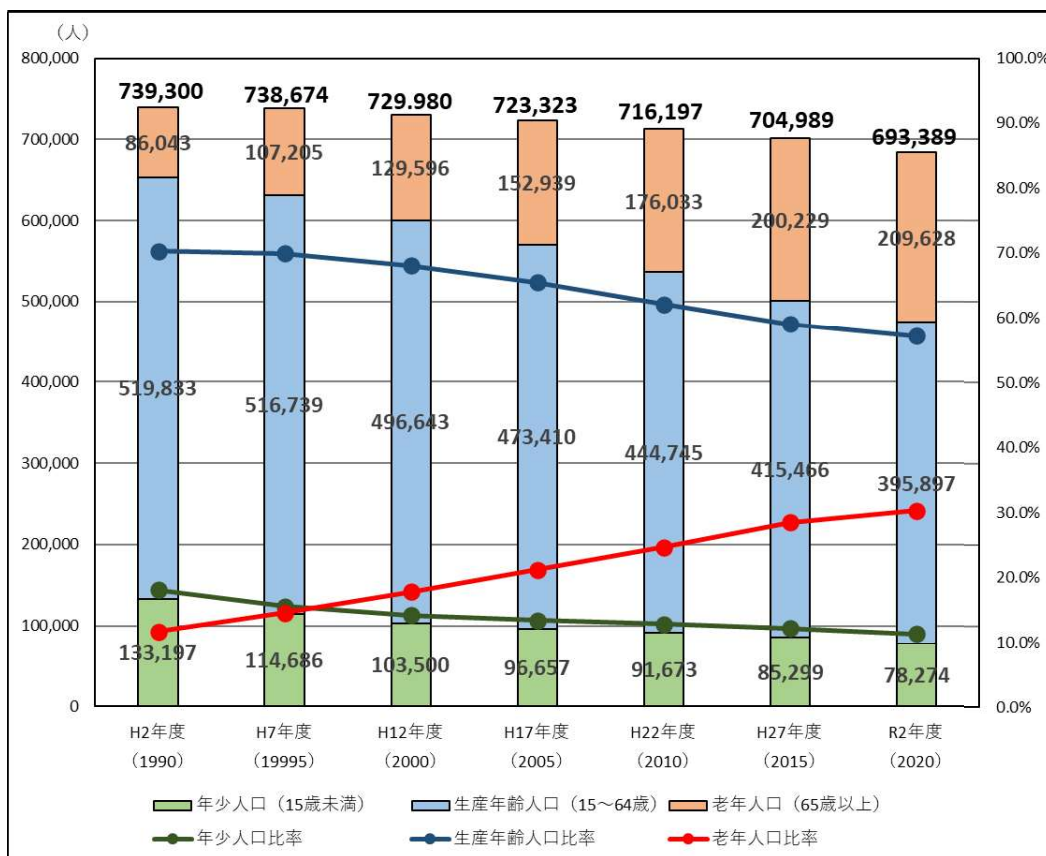
右「眺望の地富士山」、左「草木国土悉皆成仏 国土は富士なり」

第7節 社会的環境

Ⅰ 人口動向

本市の人口は令和7年（2025）10月末現在668,359人である。平成2年（1990）の739,300人をピークに人口減少に転じている。市が行った将来人口推計によると、令和13年（2031）には630,930人、令和23年（2041）には558,240人、33年（2051）には488,367人まで減少することが予測されている。

年少人口、生産年齢人口の減少と老年人口の増加により、少子高齢化が進行している。令和4年（2020）時点で65歳以上の高齢者が総人口の3割を超えている。人口減少が続くと、小売りや飲食などの生活関連サービス水準の縮小、税収入減少による市民サービスの低下、地域公共交通の縮小、空き家・耕作放棄地の増加、地域コミュニティの機能低下など様残に影響を及ぼすことが予想される。



出典：各年次国勢調査（総務省） ※合計人口は「詳細不明」を含む。

静岡市の人口の推移表

2 産業構造

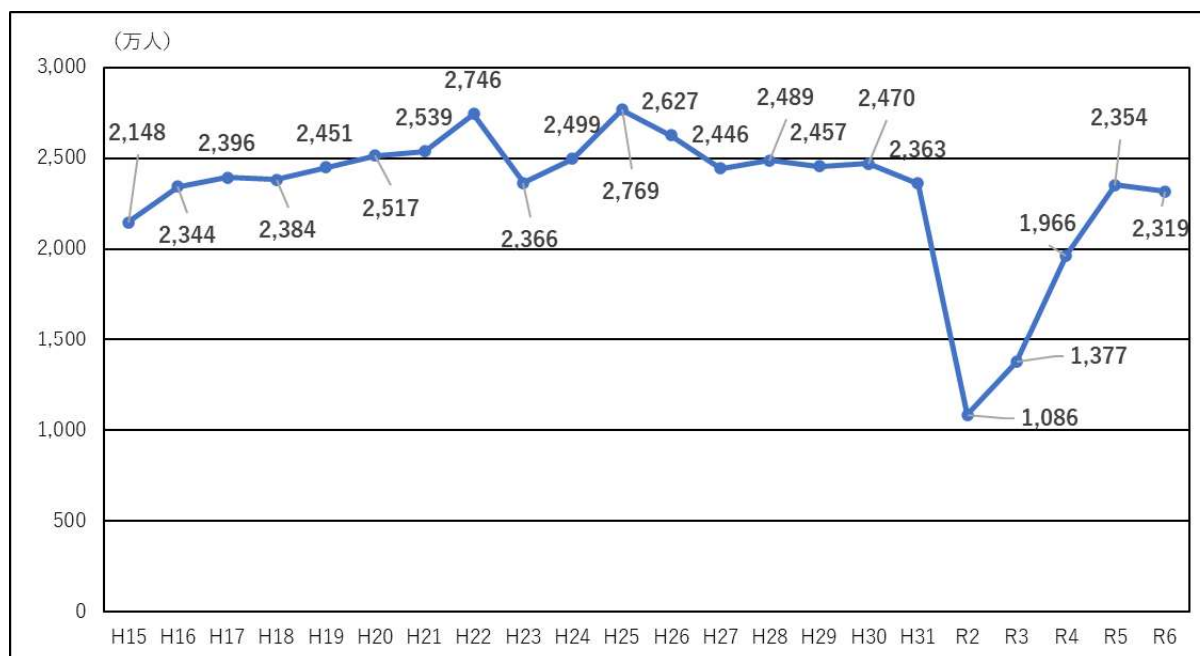
本市の産業は、第1次産業から第3次産業までが多彩にバランスよく集積しており、家具、プラモデルなどの地場産業や電気機械器具製造業、製造現場に装置等を供給するはん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、清水港で水揚げされる水産物を利用した食料品製造業、臨海部に立地する化学工業などの産業が集積し、歴史に育まれ、高度な技術を持つ企業が地域に根付いている。

日本平を含む有度山においては、丘陵上の東麓にかけて茶やミカンの栽培がおこなわれているほか、久能山南側の斜面地を利用したイチゴ栽培も盛んである。

3 観光

富士山の眺望地として多くの観光客を誘致し、静岡市の観光の中心地となっているが、年間観光入込客数の推移では、昭和52年の約280万人をピークに減少に転じ、平成17年では約138万人と半減した。（平成19年度日本平公園計画報告書 平成20年静岡市より）。平成30年度の夢テラス開館後は、令和元年度199万人、令和5年度は163万人となっている。

一方、本市の令和6年（2024）度の「観光交流客数」は2,319万人である。平成25年（2013）度には富士山が世界文化遺産に登録され観光客数が増加しており、それ以降は、若干の減少後、ほぼ横ばいであった。新型コロナウイルスの影響により、令和2年（2020）度には半数以下に減少したが、令和5年度にはほぼ回復した。



出典：令和6年度静岡県観光交流の動向 静岡県（年度別市町別観光交流客数の推移）
静岡市観光交流客総数の推移

エリアごとにみると、この10年間で観光客数が増加しているのは、日本平・登呂であり、平成30年（2018）11月の「日本平夢テラス」のオープンによる影響が見られる。
令和6年度は、観光地としては、江尻・日の出地区に次ぐ、交流客数となっている。

区分	H28年度 2016	H29年度 2017	H30年度 2018	R元年度 2019	R2年度 2020	R3年度 2021	R4年度 2022	R5年度 2023	R6年度 2024
井川	116,181	108,348	99,192	98,264	70,759	72,766	80,418	87,792	105,982
梅ヶ島	60,015	64,332	54,909	49,597	42,309	43,096	46,770	39,904	49,140
丸子・宇津ノ谷	376,935	369,075	310,122	270,439	123,896	164,896	193,306	223,759	254,885
静岡駅周辺	5,739,993	5,182,376	4,626,388	4,692,097	667,676	1,345,400	3,804,220	5,669,122	5,513,540
東静岡駅周辺	1,438,827	1,377,868	1,198,822	1,297,814	240,512	430,945	649,177	708,456	823,977
日本平・登呂	4,808,358	5,085,120	6,312,225	6,205,164	3,655,071	4,103,204	5,351,599	5,980,973	5,448,385
三保・折戸	1,112,683	994,973	887,558	930,250	490,899	462,038	780,777	557,052	530,188
江尻・日の出	6,856,570	6,840,480	6,843,062	6,551,007	2,903,951	3,783,751	4,915,146	6,038,788	6,301,207
興津	486,669	505,848	489,337	459,179	270,641	314,757	394,263	406,957	188,410
両河内	96,433	101,597	82,503	67,823	49,828	46,185	48,890	41,633	48,941
蒲原	104,345	85,417	100,225	88,366	7,965	9,954	65,772	73,410	87,774
由比	250,121	267,969	218,136	97,262	37,782	67,657	85,063	158,878	175,521

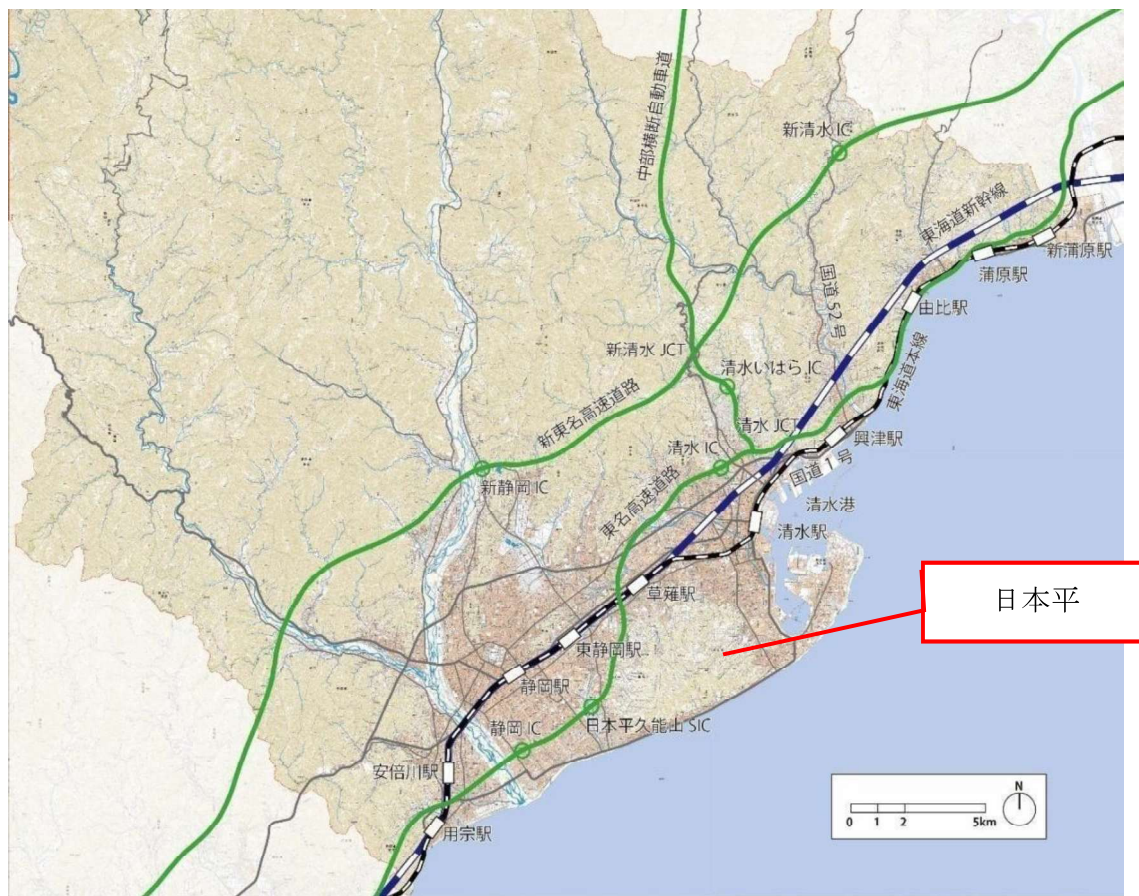
出典：ふじのくにオープンデータカタログ 観光交流客数
静岡市内の主要地点で集計した観光交流客数

4 交通

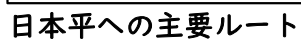
日本平山頂へは、旧清水方面、旧静岡方面からは日本平パークウェイ（現在は市道池田日本平線、市道清水日本平線）と市道旧道日本平線の各道路が唯一の自動車でのアクセスとなる。静岡方面からは、路線バスが乗り入れている。

平成 24 年（2012）、新東名高速道路が、新御殿場インターチェンジ・浜松いなさインターチェンジ間を開通した。

令和元年（2019）には、東名高速道路の日本平・久能山スマートインターチェンジが開通した。令和 3 年（2021）には、中部横断自動車道の静岡・山梨間が全線開通した。

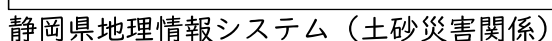


主要交通網図



<土砂災害>

名勝日本平範囲においては、日本平ロープウェイ駅舎及びその付近が、「土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）」及び「土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）」に指定されている。





静岡市地理情報システム防災マップ（日本平部分拡大）日本平ロープウェイ駅舎付近が「土砂災害警戒区域」（黄色部分）。

<火災等>

日本平の管轄は日本平消防署。防火水槽が日本平ゴルフ場入口付近にある。

第8節 他の計画との関連

本計画の検討、推進にあたっての関連する計画は次のとおり

1 『静岡県文化財保存活用大綱』【令和2年（2020）3月策定】

今後の静岡県における文化財の保存と活用の基本的な方向性をまとめている。基本理念「美しいふじのくにの文化財を県民総がかりで守り、誰もが親しみながら、未来へつなぐ」とし、1文化財の確実な保存、2文化財を支える多様な人材の育成、3文化財の効果的な活用を基本方針として取り組む。

2 『第4次静岡市総合計画』2023～2030【令和5年策定】

- ・「世界に輝く静岡」の実現
- ・持続可能な開発目標「SDGs」の推進
- ・人と自然が共に生き、将来にわたって豊かな営みを続けながら暮らすことができるまち。
- ・歴史に育まれてきた多彩なしずおか文化に誇りと愛着を持つまち。

3 『静岡市文化財保存活用地域計画』令和7年～12年度（2025～2030）【令和6年（2024）12月策定】

静岡市の歴史文化の特徴を、1川が作り出した静岡清水平野に広がる豊かな暮らし、2連綿と続く政治と文化の中心地、3街道の往来と人々の交流、4平野部と丘陵部で育まれた信仰と文化、5オクシズに息づく伝統文化、6海と共存する歴史文化、ととらえ、目指す将来像を「静岡市の文化財が活用され「市民の財産」として未来に継承される。」とした。

静岡市文化財保存活用地域計画は、文化財を将来に継承するための保存と活用について、文化財の所有者や文化財行政分野だけでなく、まちづくりや観光などの行政分野、市民団体等が連携して取り組むための方針や措置を定めた法定計画で、令和6年12月に策定された。この計画では、静岡市の歴史文化の特徴から6つの「関連文化財群」として設定し、一体的かつ総合的な保存・活用の取り組みを目指すこととしている。このうち、名勝日本平については、「関連文化財群4 平野部と丘陵部で育まれた信仰と文化」に位置づけている。

4 『静岡市観光基本計画』【令和6年（2024）12月策定】（計画期間2024年12月～2031年3月）

「観光政策を通じた持続可能な「住んでよし、訪れてよし」の国際都市の実現」を基本理念とし、市民生活の充実、喜びや観光による来訪者の満足度向上の2点を両立させる。静岡市の観光政策は、市民や関係者の理解や共感を得て、地域社会全体が一体となって取り組むこと、すなわち社会全体による共創により実現していくことが重要であり、本計画により本市が取り組む観光政策を可視化、明示している。

目標を観光消費額単価目標値の 32,000 円（7,090 円アップ）、観光消費額単価目標値を 7,200 円（3,248 円アップ）、宿泊者数目標値 3,300,000 人（1,280 千人アップ）を目指す。

重点テーマ戦略を①美食、②絶景、③歴史、④ホビーとした。重点エリア戦略を①日本平・久能山・清水港・三保松原エリア、②東海道エリア、③オクシズエリア、④用宗^{もちむね}エリア、とした。

5 『静岡市日本平公園基本計画』（平成 19 年策定。令和 7 年度現在改定中）

平成 15 年（2003）『日本平山頂部展望施設等整備調査』（有度山一帯）実施。平成 18 年（2006）『日本平公園基本構想』策定。平成 19 年（2007）『日本平公園基本計画』策定。令和 7 年度現在、平成 19 年の策定から 16 年経過した日本平公園基本計画を、時代に即した内容に再構築中。

6 しずおか遺産認定制度

「しずおか遺産」は、「日本遺産」の県内版として魅力ある歴史文化資源を発信するための静岡県の認定制度。豊かな自然に恵まれ、様々な歴史的出来事が繰り広げられた静岡県は、歴史文化資源の宝庫であり、県内の魅力的な歴史文化資源を県内外の多くの人に知ってもらい、現地の来訪へつなげることを目的としている。

令和 5 年度（2023）「日本平が紡ぐ悠久の歴史文化回廊」というタイトルで、日本平は、しずおか遺産に認定された。ストーリーの概要は、「四周眺望の地、日本平。世界文化遺産の富士山を仰ぎ見る一方、眼下にはその構成資産となる三保松原など、古今名だたる景勝地を視界に収める歴史文化資産回廊である。日本平は、徳川家康ゆかりの久能山東照宮を始めとする歴史文化資産の集積地でもある。その歴史は、神話の時代に遡り、悠久の歴史の中でその眺望は人々を引き付けてきた。眺望に魅せられた古今の文化が日本平で受け継がれている。」とされている。

第9節 対象区域における主な現状変更と関連計画等の経過

現状変更と関連計画等の経過

- 昭和7年 史蹟名勝天然紀念物保存法第1条に基づく仮指定
- 昭和12年 都市計画法に基づく都市計画公園「日本平公園」となる。
- 昭和26年 日本平県立公園指定
- 昭和28年 県による山頂の土地の買い上げ 駐車場、公衆トイレ等公園整備
- 昭和32年 日本平と久能山を結ぶロープウェイが開通
- 昭和34年 名勝指定
- 昭和35年 日本平にプラネタリウムができる（日本平観光天文センター）
- 昭和37年 日本平パークウェイ起工式。39年開通
- 昭和47年 県立自然公園運営協議会発足
- 昭和58年 名勝日本平保存管理計画策定
- 昭和61年 有度山総合整備計画（県・市）基本構想・基本計画策定
- 平成4年 日本平公園基本構想・基本計画（県）
- 平成17年 山頂部 デジタルタワー建設
- 平成18年 日本平公園基本構想（市）
- 平成20年～日本平公園基本計画に基づく山頂部の環境整備、駐車場整備
- 平成22年 名勝日本平保存管理計画に基づく現状変更規制地域の種別と規制基準の設定
- 平成29年 日本平公園第三駐車場
- 平成30年 日本平山頂部 日本平夢テラス展望回廊施設、平原ゾーン北東一部供用開始
- 令和3年 日本平ロープウェイ待合「門前の恵みたいらぎ」リニューアル（静岡鉄道）
- 令和7年 アクセス道路